



きらめき通信 vol.40



第8回講演会を開催しました

7月7日(金)にきらめきプロジェクト第8回講演会を開催しました。「きらめきプロジェクト講演会」では毎回様々な分野の方をお招きし、今まで行ってきたことや現在の活動を語っていただいております。



今回は、「発達障害と共に生きる～子供からおとなまで～」と題し、児童発達支援センターこだまの園長である緒方よしみ先生に講演していただきました。

緒方先生には、大人だけでなく子供と関わる際の具体的な場面に対して、発達障害者に対応する際のポイントを教えていただきました。

近年「発達障害」という言葉はメディアなどで取り上げられ社会に広く知られるようになりましたが、その関わり方や診断方法については模索している段階だと思えます。今回の講演を受けて、発達障害の特性を知ること、お互いにより良い社会づくりができるよう今後とも知識を深めていく必要があると感じました。

今年も医療関係者だけでなく、保育士や学生さんなど100名を超える方々にご参加いただき、大盛況のうちに「きらめきプロジェクト第8回講演会」を終えることができました。

ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



九州大学病院
きらめきプロジェクトキャリア支援センター
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1
TEL/FAX: 092-642-5203
MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp
URL: <https://www.kyudai-kirameki.com/>

2017年7月(隔月発行予定)





性差医学に関する講義が行われました

5月30日(火)、講師にきらめきプロジェクトOGである国立病院機構九州がんセンター乳腺科部長である徳永えり子先生と医療法人たかやま内科医院 院長である雨宮直子先生をお招きし、性差医学に関する講義を行いました。

乳がん治療などの乳腺外科の立場から、また女性外来や心療内科の立場から性差医療についてお話をいただきました。学生にとって性差医療の大切さを学ぶ良い機会になったのではないのでしょうか。

【学生の感想(抜粋)】

- * 男性と女性で、これほどまでにがんになりやすい部位や死亡率などに大きな差があることを知り、驚きました。
- * がんを発症した後の、医療費や闘病生活のことを考えると、予防が何より大切だと感じました。一人一人が「予防」を第一に考えることが大切だと思います。
- * 女性外来のお話はとても興味深く拝聴しました。話に出てきた患者さんの話にも共感する部分がありました。
- * 自己免疫性疾患の男女の差をみて、こんなにも差が出るのかと驚いた。患者さんの一言一言に敏感にならないと適切な治療はできないんだなあと思った。



徳永えり子先生



雨宮直子先生

レディースコンパが開催されました

6月8日(木)にレディースコンパが開かれました。レディースコンパとは、年に一度開かれる九州大学医学部女子学生のための会で、他学年の先輩、後輩や、先生方とお話できる数少ないチャンスです。当日、学生たちは思い思いのおしゃれをして参加しました。



レディースコンパには、毎年きらめきプロジェクト副センター長である榎木晶子先生も参加をし、今後起こりうる休職や離職に繋がりやすいライフイベント時にどのような対応をしたらいいのか、キャリアを継続させていくためにはどのようにしたらいいのか、など楽しく食事をしながらアドバイスしました。



きらめきプロジェクトが TV 取材を受けました

5月9日(火)に TVQ 九州放送
「ふくおかサテライト」のテレビ取材を受け、
5月19日(金)に放送されました。

今回は「ワンオペ育児」をテーマに、ワークライフ
バランスに取り組む企業紹介の中で、きらめき
プロジェクトが取り上げられました。

取材当日、当プロジェクト所属だった第
一外科山田舞先生の1日に密着され、ワ
ンオペ育児の実態と、山田先生
がきらめきプロジェクトに所属した
経緯や現在の状況、今後の事
についてお話しされました。

状況が少しでも改善され、働くママの負担が
軽くなるよう、きらめきプロジェクトは引き続き全
力で支援してまいります。



ワンオペ育児とは・・・配偶者の仕事過多・
単身赴任・病気を理由に、仕事・家事・育児
のすべてを一人でこなさなければならない
状態のことを言います。



取材の様子

